

社説

米國の銀論

目下米國にては金銀の論甚だ盛なり金論を唱へて銀を排斥するものは東部諸州の人々にして之に反して銀論を唱へて銀の回復を企てるものは西部諸州に多し...

の外なく米國は恰も世界貿易の盟主たるに至る可し國の利益を計るは銀の價格を回復するに在り金の排出の如き意を介するに足らざるなり云々...

敍任辭令

任内閣書記官兼内閣事務官(最高官) 田口 隆三
任陸軍歩兵少佐 陸軍第二師團長 西川 爲三
任陸軍歩兵少佐 陸軍第二師團長 藤田 景徳

御救恤金下賜

本月二十六日北海道函館區火災に付天皇、皇后兩陛下より罹災者御救恤として金二千三百圓を昨三十一日下賜する旨の御沙汰ありしと云々

皇太子殿下の御誕辰日 昨三十一日は皇太子嘉仁親王殿下の御誕辰に當らせ給ふを以て宮中を始め親王大臣以下百官より殿下御留中なる日光の御旅館に宛て祝詞を奉呈されたるが本邦駐劄の各國公使館に於ても夫々國旗を翻へして祝意を表したり

皇族の御歸京 曩に御遷居の爲め神奈川縣下箱根に赴かせられたる皇女泰宮女殿下は去月二十九日又同縣下三浦郡栗山村へ旅行中の北白川宮瀧子、武子の兩女殿下は同日三十一日御歸京せられたりと

書を送て露帝を戒む 先頃露帝に書を送り官吏の專横を暴露し宜しく之を制す可き旨を忠告せる者あり其人は英國又は瑞西に流寓する彼の盧無黨員に非ずして現に露國內に在る者手に成りしが如し其書の大意を記さん今や陛下の周圍には奸佞邪智の臣輩り下情を吐いて上に通せしめざるが故に陛下にして自から聰明博愛を許し苟も改革を希望する者を以て大逆不道の民なりと認むる間は即ち彼の奸臣等の得意なる時代にしてます

愛國の志士を苦しめ自家の私利を計るに専らなる可し抑も彼等は國民に自由を與ふるを好まざるのみか現在陛下に對して之を許すを欲せず只官吏の掌中に一國の主權を獨占せんとする輩なり陛下或は戴冠式の盛大壯麗なるを見て臣民擧げて忠君の情厚き證なりとするならんれども是は非常なる間違ひて此盛典は知事が無智の人民を感し巡査探偵が鞭撻暴虐を恣にしたる結果に外ならず陛下は常に革命を恐るゝと雖も露國人の多數は決して革命などを企つるものに非ず畢竟官吏が當に盧無黨を逮捕するのみならず良民を虐げり終に國民一般の不平を惹起すに至りしなり是に於て戴冠式の際巡査兵隊はモスコイ府を取捲き警戒を嚴にし陛下の通駕に當る街道附近の人家は悉く其窓を閉ぢられし上に封印まで附けられ諸製造所の職工その外市外に退去を命ぜられし人数は四千人に達し秘密探偵は一日に三度づつ各戸を見廻りたり陛下下露國民は最早や斯の如き官吏の暴政を堪ふるを得ざれば早晩大變を起すならん故に陛下から陛下が祖父の非命にあり太平無事を樂しまんとするの内憂を憂し血を流さんとするが如き者の一を樂ま可きのみ云々

海員八百餘名決闘の後報

門司港の石炭上荷船の船頭安田捨藏及び柏原市松が門司組の同業船數百艘を乗催はして去る二十四日馬關組の同業船と網江灣の沖合にて決闘せんとし一度馬關水上警察署の手にて解散せられ右二名は其場にて捕縛せられしを餘黨は無念に思ひ再び決闘状を送りて馬關組に決闘を促したるも是は前報の紙上に記せしが今其後報によれば門司組の餘黨が決闘状を送りたりといふは虚聞なるが如し即ち右二巨魁の捕縛となるや他は皆烏合の衆なれば再び前の如き擧動なきのみか日頃其暴威に恐れて已むなく附隨したるもののみなれば今日反て厄介者を拂ひ去りたりとて一同喜び居るもの如く馬關組に於ても此事情を知りし上は別に門司組に對して惡感情を懐くべからず左し馬關組の海賊を此海峽に見るべかりし伏線は當局者の嚴密なる注意によりて遂に一波をも揚げずして止みたるを何よりの事といふべけれ

府下の赤痢病

府下市郡に於ける去月二十九日午前零時より同三十日の午前零時に至る赤痢病の新患者は三十二名なり

女武者

第二回 ぬれ當年の女武者
人跡絶えて鳥籠靜なる山なれば、人目にかゝる由も無きに、さりとて心附かた有りける事思かさま。
尼は答へに困せし口許に笑を含みて、右手に切髪を襟元を撫でながら、此深山に日を暮し主は、戻りの路の難儀に待らん、早や日も傾きて候へば、暮れぬ内に急ぎ玉へ、妾も夕の御勤を致し候はん、問へば答へん、御行の御勤はあらば戻り候はん、さりながら主命を帯びて遙る、妾も表立ち難し、何處に亡き魂の眠るも拜さねば、夜義の表立ち難し、何處に亡き魂の眠るらん、御示しあれや、と感念なり、先住の亡魂は上田の館へ入して送らせ候へば、妾も定めし彼方に候はめ二處に一ツの佛を用ふは、反て死者が迷ひの種に侍れば、妾は假の記念さ、種に侍らす候」と管絃の色押隠して、朱唇巧みに問者を欺きぬ。

